

2013年9月6日

アメリカ合衆国大統領  
バラク・オバマ 様

東京都千代田区三崎町 2-11-13  
安保破棄中央実行委員会  
事務局長 東森英男

## シリアへの軍事攻撃を行わないことを求めます

オバマ大統領は、内戦が続くシリアで、政府軍が反政府勢力に対して化学兵器を使ったとして、シリアへの軍事攻撃を行うことを表明し、連邦議会にその承認を求めている。

化学兵器の使用は、人道と国際法に反する残虐行為であり、何人にも許されないものである。しかし、化学兵器の使用がいかにか非人道的行為であったとしても、それを名目として他国に武力介入することは許されない。

現在、シリアにおける化学兵器使用に関する調査が、国連を中心に行なわれている途上である。オバマ大統領は、8月31日の声明で、「国連調査団の調査を待つ必要はない。米国が国連安保理の承認なしに前にすすむのも気にしない」として軍事攻撃を正当化することに終始しているが、国連を無視した軍事行動が許されないことは自明である。オバマ大統領は、アメリカ合衆国が、「大量破壊兵器の所有」を口実として国連安保理決議なしにイラクに軍事攻撃をおこなったイラク戦争を批判して大統領に当選したことを想起すべきである。

そもそも、内戦に対する軍事介入は、平和秩序の回復につながらず、さらなる暴力の連鎖と人的被害、化学兵器拡散の危険を生み出すものである。いま国際社会がなすべきことは、国連が中心となって、シリアでの化学兵器使用をめぐる事実を明らかにし、国際社会が一致して化学兵器の廃棄を迫ることである。そして、シリア政府と反政府勢力双方の政治対話を促し、国連憲章に基礎をおいてとり得るべき平和的手段を実行することである。

私たちは、オバマ大統領が表明した、シリアへの武力行使の言明を撤回するとともに、連邦議会に対する武力行使の承認を撤回するよう強く求めるものである。

以上